

生命力あふれる秋田の自然に魅^みせられて

Interview インタビュー
Kentaro Yamada



自然の中で暮らしたいと秋田へ移住し、捨てるしかなかったクマの皮を革製品にして、世の中に流通させようという「ITAZ LEATHER」事業をスタート。その経緯、思いを伺った。

猟には1〜3人程度で行う「忍び猟」と、10〜15人で行う「巻き狩り猟」がある。マタギの根幹ともいえる「巻き狩り猟」は、獲物を追い立てる役と、追い立てられた獲物を仕留める射手に分かれて行う方式だ。獲れたクマは儀式的後に解体し、肉を参加者みんなで平等に分け合う。その他分けられない毛皮や熊の胆などは競りにかけ、欲しい人が買い取る。

マタギとの猟で授かった1頭のクマの皮をこの競りで買い取り、なめし業者にレザーにしてもらった。どう使うべきなのか半年ほど悩み、まずはキーホルダーを制作。マルシェで販売



▲作品の一例。解体の工程で穴が空いた皮でも、その個性を生かした製品づくりをする ※上記は参考商品



▲手に入れた毛皮はすぐに大量の塩をまぶして天日干しをする

▼猟銃免許入れを作り、お世話になった猟友会メンバーに配る活動も行った



したところ思った以上に好反応だった。今まで捨てるしかなかった皮を有効活用できるかもしれないという手応えを感じた。

「ITAZ LEATHER」始動

有害駆除として補殺されているクマは、県内で年間数百〜数千頭といわれる。知り合いの猟師に声をかけ、捨てられてしまう毛皮を回収する取り組みを2023年に開始。この年はクマの出没が多く、手に入れた毛皮は90枚にも上った。県が募集していた「若者チャレンジ応援事業」に申し込み、助成金を使って毛皮を



▲宮城県で行われた展示会にも、多くの人が訪れた

レザーにし、県内のレザークラフト職人に小銭入れやポシェットなどの制作を委託。24年6月、秋田市山王の「さきがけホール」でレザーと革製品の展示会を行うと、4日間で400人の来場者があった。

「批判的な意見があることも覚悟していましたが、捨てられてしまうものをしっかり使うということを評価してくれた人が多かった。日々の中でクマの存在が大きい秋田の人には共感してもらええる部分があったのかもしれない」

マタギの精神を形として残す

山への負荷に配慮しつつ、クマを仕留め、山菜を採る。山の恵みに感謝しながらお金を得てその地域に暮ら



▲山田さん自らが制作する「キーホルダー」。抽象的な形がどこかかわいらしい。形はインスピレーションで決める

マタギに出会い、移住を決意

生まれは香川県。自然が身近ではない環境だったこともあり、東北の自然に興味があった。大学時代に東北各地を旅した際、北秋田市阿仁の「松橋旅館」に泊まった。現役のマタギである主人の松橋利彦さんと出会い、その考え方に感銘を受け、卒業後に阿仁へ移り住むことを決めた。狩猟免許を取得して来秋し、「松橋旅館」に住み込みで働かせてほしいと申し出たが、人を雇う余裕はないと断れる。しかし、この時に知った地域おこし協力隊となり、2020年から2年間、マタギのPR活動を行った。実際に猟にも参加し、自然と共生するマタギ文化を肌で経験した。

マタギたちは、自分らが自然とともにある存在だということを意識しながら生きていく。そんな生き方に魅せられた。

「革製品になれば長く形に残る。それはクマが生きていたことの証しでもあります。『ITAZ LEATHER』の取り組みを通して、狩猟現場の現状とマタギの精神を多くの人に伝えられたら」と話す。

合同会社 HUNT 山田 健太郎さん

【プロフィール】
香川県出身。2020年に北秋田市に移住。22年4月に合同会社HUNTを設立し、山菜やクマなど山で獲れたものの加工・販売を行う。24年にクマ革製品ブランド「ITAZ LEATHER」を立ち上げ、マタギ文化や狩猟現場の現状を伝える。現在八郎潟町在住。

【問い合わせ】合同会社HUNT
tel.080-9758-6616 huntllc.2023@gmail.com

